

2009 年 4 月 20 日発行

1. 肺がんとはどのような病気？

肺は左右に 1 つずつあり、身体の中に酸素を取り入れ、二酸化炭素を排出する重要な臓器です。肺がんは、その肺を形つくる気管、気管支、肺胞などの正常細胞が無秩序に増える悪性細胞に変わること（＝がん化）で起きます。

どのような流れ（＝機序）でがん化するかは、まだ十分解明されているわけではないのですが、喫煙習慣が深く関わっていることは疫学調査でわかっています。2006 年の日本人対象の疫学調査で、喫煙者の肺がん発生率は非喫煙者に対して男性で 4.4 倍、女性で 2.8 倍高いとの結果でした。つまり、たばこが発生原因である肺がんは男性 68%、女性 18% と推測されています。また、受動喫煙も 20～30% リスクを高めるといわれています。



図 1：イギリスで今年から煙草のパッケージに掲載予定の写真
非喫煙者(左)と喫煙者(右)の肺の比較
「喫煙は**致命的な肺がん**を惹き起こす」

2. 肺がん患者はどれくらいいるの？

肺がんは 1960 年代から急激に増加し、がんで亡くなった人数を部位別に多い順に並べると、近年では男性は第 1 位、女性で第 2 位となっています。年齢別にみた肺がんの罹患（りかん）率、死亡率は、ともに 40 歳代後半から増加し始め、高齢ほど高くなります。また男性のほうがともに女性より高く、女性の 3 倍から 4 倍にのぼります。

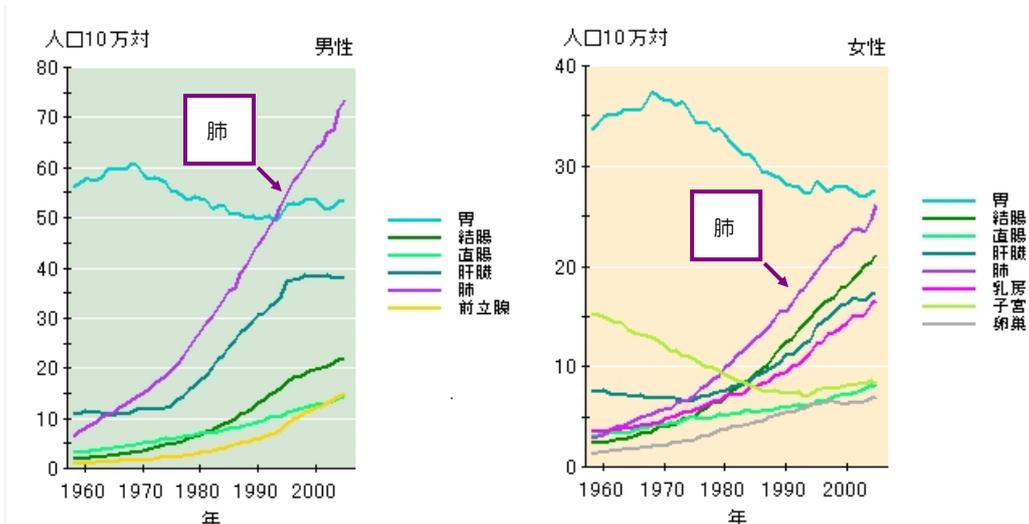


図 2：日本における各がん種における 10 万人あたりの死亡者数の推移

3. 肺がんの症状はどのようなものがあるの？

最近増えているタイプ（肺腺がん）は、がんが小さいうちは症状が出にくい傾向にあり、検診や人間ドック、他の病気で医療機関にかかっている時に見つかることなどがあります。

一般的な症状として、他のがんと同じように易疲労感、食欲不振、体重減少などを認めます。また比較的肺がんによくみられる症状として、なかなか治らない咳や胸痛、呼吸時のゼーゼー音（喘鳴：ぜんめい）、息切れ、血痰、声がれ（嘎声：させい）、顔や首のむくみなどがあります。

ただ、それら肺がんの一般症状は、風邪などの症状と区別がつかないことが多いので、長引く咳や血痰などの呼吸器症状を認める場合には、医療機関の受診をお勧めします。特に喫煙歴のある40歳以上の人は要注意です。

4. どのように診断・治療となるの？

肺がんが疑われた場合、まず疑わしい部分の細胞をとってきて病理学的検査をおこないます。その方法は経気管支肺生検（＝内視鏡を用いて組織をとってくる方法）やCTガイド下針生検（＝CTを用いて皮膚から針を刺して組織を取ってくる方法）などが一般的です。

がんが確定した場合、病気の広がり（＝病期）を調べるため、造影CT、造影MRI、PET、骨シンチなどの画像検査を行い、その結果をふまえて治療方針を決めていきます。

治療としては、手術、放射線治療、化学療法（＝抗がん剤治療）などがあります。化学療法は点滴を用いることが一般的ですが、近年副作用を軽減することができたため、外来通院をしながらおこなうこともできます。がんの種類によっては内服剤にて治療をすることもあります。

また、“侵襲のある（＝体に負担をかける）治療はやめて、元気なうちに自分らしく生きる”ことを目的に、精神的・肉体的な痛みを緩和することを目的とした緩和医療を選択することも出来ます。

何かご不明な点がありましたら呼吸器科外来まで。

次回 第2回 禁煙外来

健康管理科 安藤 麻紀 先生

2009年5月11日配付予定

この内容は、名古屋掖済会病院ホームページでもご覧頂けます。

えきさいかい



-World No Tobacco Day- 世界禁煙デー 5月31日
禁煙週間 5月31日～6月6日